

令和7年度 第1回

結城南中学校区新設校推進委員会議事録

結城市教育委員会

令和7年度 第1回 結城南中学校区新設校推進委員会議事録（要旨）

○日 時 令和7年6月26日（木曜日）午後6時30分から午後7時45分

○場 所 結城市役所 1階 多目的スペース

○出席委員 委員長 小島 睦 副委員長 塚田 裕史 委員 川島 敬一
委員 仲見川 有紀子 委員 鈴木 敦子 委員 西村 孝幸
委員 本橋 裕子 委員 坪野 広孝 委員 平塚 隆志
委員 石崎 裕子 委員 茂田 一弘 委員 大塚 健治
委員 飯村 仁士 委員 國府田 均 委員 上田 哲弘
委員 鈴木 翔太 委員 山中 淳一 委員 栗原 隆雄
委員 平間 高之 委員 稲葉 敏次 委員 立川 博敏
委員 上野 豊

○教育委員会事務局

教育長 黒田 光浩

教育部長 大木 博

学校教育課長 福井 恵一 課長補佐兼小学校新設推進係長 和泉田 真

主任 伊佐岡 真美 主幹 石川 司

学校再編コーディネーター 杉本 尚志

参事兼指導課長 湯本 勝洋

○オブザーバー 市長 小林 栄

●次第

委嘱状交付

1 開会

2 委員長あいさつ

3 市長あいさつ

4 自己紹介

5 議事

(1) 結城南中学校区新設小学校建設に伴う概算事業費について

(2) 新設小学校の施設・教育内容について

(3) その他

6 その他

7 閉会

○要旨

委嘱状交付

1 開会

2 委員長あいさつ

・ 昨年の 12 月末に次期の学習指導要領について文部科学省の方から中央教育審議会に諮問がなされた。2020 年から小学校は今の学習指導要領が始まった。教育に関してばかりではないが、常に将来を見据えることは必要なことだと思う。まさにこの委員会も先を見据えてどうあるべきかということのをこれまでも議論いただいたし、ぜひ今後ともお願いしたい。引き続き委員の皆様のご協力をよろしくお願いしたい。

3 市長あいさつ

・ 推進委員会の皆様には結城南中学校区新設校の設置に向けてご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

・ 本市の学校教育において、令和元年度に出生数が初めて 300 人を下回り、ご存じのとおり急激な児童生徒数の減少が進んでいるため、私の市長就任当時から統合による学校再編、学力向上をテーマとして考えてきた。

・ 日本が世界に誇るべきものは、教育による人材の育成だと考える。

・ 昭和 40 年代から 50 年代に建設された校舎をそのまま利用していくことは、経済的な面だけでなく、子どもたちにとっても、切磋琢磨しながら成長すること、社会性や多様性、協調性、様々な教育効果を見込んで学ばせるには限界があるだろうと考える。

・ このような中で、特に結城南中学校の周辺は他の地区にはない豊かな自然環境があり、地域とともに子どもたちを育てながら、『誰一人取り残さない教育環境で子どもたちの能力を最大限に引き出す教育』をしていきたいと今回の学校づくりがスタートしたところである。

・ これまで市議会からの提案や要望のとおり、事業費の圧縮のために設計内容の変更を実施してきたが、ご理解いただけなかったため、さらなる事業費の圧縮案として小学生が中学校の体育館を共有することで体育館の建設を先送りする計画としている。

・ これからの小中学校の教育方針として、自然豊かな環境を活かしながら、様々な体験を通して子どもたちの無限の可能性を最大限に引き出す教育をしたい。そして、命の大切さや自然環境の大切さ、人を思いやる心を育て、子どもたちの心を成長させたい。

・ 令和 10 年 4 月の新設小学校開校を目指すためには、これ以上計画の先送りや変更をすることはできない。推進委員、保護者、地域の皆様には、是非とも市の意向にご賛同を賜り、引き続きご支援くださるようお願いしたい。

4 自己紹介

5 議事

(1) 結城南中学校区新設小学校建設に伴う概算事業費について

【事務局説明】

○新設校に関する状況について

- ・これまでの経緯として、令和10年4月の開校を目指して事業の推進を図ってきたが、令和7年3月議会で、校舎建設等の事業費を予算計上したところ、市議会でその建設に関する予算が修正され、削除された形で可決となった。
- ・市では、市議会からの懸念で一番大きいところは事業費の大きさであるだろうと捉え、なるべく事業費を圧縮すべく検討を進め、令和10年度の開校を目指す方針は変えずに、4月の小中学校のPTA総会や、市のホームページ等で、市長から、市の方針について説明した。
- ・事業費の圧縮案として、体育館の建設を先送りする案を5月22日に市議会の方に報告したが、この予算圧縮案を検討するときに使用した、市の予算の予備費について市議会から指摘があり、地方自治法100条に基づく調査特別委員会が立ち上がった。
- ・市としては、市議会等の事業費圧縮の意見に基づき、圧縮を図るべく使用した予算であることから問題はないと考えているため、引き続き市議会等に説明を図り、理解をいただいた上で、令和10年4月の開校を目指し取り組んでいきたい。

○概算事業費（予算圧縮案）について

- ・当初予算審議において、3か年総額44億1,400万円を削除する修正予算案が賛成多数で可決したことに伴い、修正予算案の提案理由などに対応するため、市の財政を考慮した削減後の概算事業費を算出した。
- ・効果としては、約7億4,100万円の事業費の削減になり、内容は主に小学校用の体育館の削除による工事費の削減の他、建築単価の嵩上げや、基礎杭の特別加算などによる国庫補助金の増額が見込まれている。このことにより、市債が約5億5,200万円圧縮できる見込みとなっている。

【意見】

- ・設計変更の業務委託費が予備費から支出されたことが問題になっているとのことだが、それはなぜか。議会が百条委員会を立ち上げたのはどのような意図なのか。

【意見に対する事務局の回答】

- ・市の予備費は、地方自治法の中で、議会で否決された事業費に予備費を使用してはいけない決まりがある。今回否決されたのは、新設校の建設費及び工事監理費であり、その事業費をそのまま予備費で支出することはできない。
- ・否決された理由について、事業費が大きすぎるという議会の懸念を解消するため、設計を見直すための設計変更委託業務に予備費を使用した。したがって、議会が否決したものは別の予算、別の目的で予備費を使用したので問題ないと考えている。
- ・議会では、否決したのは事業全部であるという議員もおり、見解の違いによって、適法かどうか不明確になっているところを調査するため百条委員会が立ち上げられたという経緯である。

【意見に対する推進委員（議員）の回答】

- ・議会では賛成多数で百条委員会の設置が決定されたが、内訳としては設置に賛成が9名、

反対が 8 名であった。

・どのように調査委員会の内容が進んでいくのか、情報としていただいていない状態なので審議はこれからになるという状況である。

(2) 新設小学校の施設・教育内容について

【事務局説明】

・学校形態としては結城南中学校の敷地内に建設をし、小学校と中学校を渡り廊下で接続する施設一体型の小中一貫型小学校とする。五つの小学校のうち一部の小学校への統合、段階的な統合という提案があるが、五つの小学校が対等な立場で新設統合し、結城南中学校と連携を深めることで小中一貫教育のメリットを最大限に生かすことができると考えている。

・特別支援教室は校舎の中心に配置をしており、誰一人取り残すことのない一人一人の教育的ニーズに合わせた教育をするというコンセプトで施設配置を考えている。

・メディアセンターは 1 階部分が図書室、2 階部分は ICT ラボやスタジオなどが兼用するような施設で、地域開放を前提とし、ゆうき図書館の分室としての活用、地域の交流の拠点となるようなことを想定している。

・結城南中学校の体育館はおよそ 2,000 m²以上の面積があり、小学生、中学生が同時に活動しても十分な広さを有しており、体育館については、結城南中学校の体育館と共用になる。

・渡り廊下で結城南中学校に移動しなくても、小学校の校舎内に軽運動ができるスペースを設ける。

・コミュニティ・スクールの先進校として、地域とともにある学校づくりを進めるため、地域の方の活動や交流の場として地域交流スペースを計画している。

・バスのロータリーは十分な広さを確保し、スクールバスが現在では中型バスが 6 台、マイクロバスが 6 台の計 12 台の運行を計画している。一度に停車することができるスペースが確保されており、乗降時の児童生徒の安全が確保されている。

【意見】

- ・体育館を後々作る予定があるのか。
- ・屋内運動スペースにはエアコンがあるのか。
- ・体育館のエアコンについてはどのように考えているか。
- ・学童保育の設置についてどのように考えているか。

【意見に対する事務局の回答】

・結城南中学校の校舎そのものが約 50 年たっているもので、将来的には建て替えの話が出てくるかと思う。その段階で、小学校と中学校の共用の体育館を新設するという形も方向性としてはあると考えている。敷地に関しても十分確保されているので、そのような計画で進めたいと考えている。

・子どもたちの活動スペースなので、空調に関しては検討したいと思っているが、まだ現段階では設計内容が進んでいないので、今後の検討ということで考えている。

・体育館の空調に関しては、結城市全体的な計画になるかと思うが、時期的なところはま

だ具体的ではない。市内の小中学校の体育館の空調設備に関しては、計画に基づいて予算化をして設置をしていきたいと考えている。

・学童保育に関しては、担当が福祉部門になっている。教育委員会の中で議論されている中では、新しい小学校に隣接した形で学童保育が設置されることが望ましいだろうということ考えているが、現在、福祉部門のこども福祉課にて、市立の保育所のあり方も含めて、なるべく敷地内に設置ができるような方向で検討を進めていると思っている。

(3) その他

【市長への意見】

・百条委員会の設置について、新聞報道等を見ると、議会軽視だという記事があった。私としては、市民はなるべく早く新設校を作ってもらいたいという意見であると考えている。資材の高騰や、工賃の高騰は目に見えているので、とにかく進めてもらいたいというのが結城市民のほとんどの人の考えだと思う。これから、四川地区の区長会で、早く進めていただきたいという要望書を作成する考えでいる。実現するかはわからないが、私としてはなるべく早く仕事を進めてもらいたいということをお願いしたい。

【意見に対する市長の回答】

・議会軽視と言われていたところは謙虚に受け止めなければいけないと思うが、準備してきた中で、統合小学校建設に反対という話はずっと聞いてはこなかった。予想以上の物価高騰で、当初予想していた建設費より多額の計上となった点は十分認めているが、それでも議会の意向を尊重しながら、例えば最初計画していた廊下幅を狭くするなどして対応している。

・メディアセンターや、ランチルームなど、地域とともに育つ学校、誰一人取り残さない学校というコンセプトは維持したいので、0からの見直しはあり得ない考える。令和10年4月の開校を目指して、何としてでも議会の皆様にご理解をいただきたいと考えている。

・子供たちの教育を先送りしていいことがあるのかと考えており、地域の声、市民一人一人の声が議員に届けば、少し考えを変えてもらえ、議員一人一人をお願いしてでも理解をいただくしかないと思っている。自治会の自治協力員の協力、あるいはPTAの父兄の皆様の協力をいただきながら議員の皆様の賛同を得ていきたい。

・もう既に国や県と協議も進めており、先送りしてまた補助金がつくのかという懸念もある。

・南中学校区は都市計画でいう調整区域がほとんどで、調整区域に家が建てやすい環境をつくる「区域指定」という制度があり、南中学校区で田舎暮らしをしたい人や、南中学校区の新しい小学校に通わせたい若い世代も受け入れられるように、「区域指定制度」を導入するというので、令和9年頃を目途に進めている。

・学校を中心に新しいコミュニティをつくり、学校を中心に南部地域をつくっていききたいという思いがある。周辺の田んぼや畑を利用したり、里山を利用したり、様々なご要望の中で南部地区には大きな公園がないという要望もあるので、学校と一緒に整備も進めていきたい。南中の体育館は防災拠点にもなるので、様々な活用ができるのではないかと考えている。

- ・ 今後は、北部市街地の結城中学校区や東中学校区も建て替えや小中一貫を進める時期が必ず来ると考えており、成功事例をつくりたいと考えている。
- ・ 反省点として、議会との意思疎通をもっと図っておけばよかったと感じている。

【推進委員（議員）への意見】

- ・ 議会の承認を得られないと新設校の建設ができないということだが、推進委員の議員 2 名は賛成していると理解してよろしいか。

【意見に対する推進委員（議員）の回答】

- ・ 予算の心配もしなければならぬのは当然だが、まずは、子どもたちの教育の観点から何がいいのかという観点で話を進めて行くべきである。100%の賛成はあり得ないと思うが、賛成の立場として進めていきたい。
- ・ 一議員として学校をつくってほしいという考えを持っているが、議会は 18 人の議員で構成されており、私たち 2 名の声が議会の総意ではないことを理解いただきたい。一個人の議員としては賛成の立場である。

6 その他

【教育長報告】

- ・ 現在、結城南中学校は校長先生を中心に、本当によく頑張ってくれている。例年実施している小中一貫教育会議では、乗り入れ授業や出前授業、体験学習など計画していただき、子どもたちもよく頑張っている。
- ・ 6 月 19 日に、五つの小学校での合同宿泊合宿があり、皆さんに見てもらいたかった。キャンプファイヤーで 5 校の火が一つになって結城市を照らしていくことにとても感動した。
- ・ 南中学校区だけでなく、結城中学校区、東中学校区も同様に、もっと素晴らしい教育を進めて行きたい。教育は、未来の結城市への最大の投資だと考えている。教育の責任者として頑張っていくので、ご支援、ご協力をお願いしたい。

7 閉会